



こどもクリニックニュース

NO. 241 令和2年2月1日発行
ともながこどもクリニック

院長の予定 (2020年3月まで)

2月	17日	(月)	3才健診	加須・保健センター
	20日	(木)	検診	スピカ・レディースC
3月	9日	(月)	3才健診	騎西・保健センター
	18日	(水)	1才半健診	加須・保健センター

これらの日は午前の受付を12:00前に締め切ることがあります。また午後の診療開始時間が多少遅れることがあります。

休診の予定

4月17日(金)、18日(土)
勝手ながら臨時の休診といたします。

小児科休日診療の当番

令和2年3月8日までの当番一覧です。加須市では、11月～3月は元日を除くすべての日曜・祝日に、4月～10月は祝日に小児科休日診療を行っています。

月	日	曜日	当番医
2月	2日	(日)	福島小児科医院
	9日	(日)	ともながこどもC
	11日	(火)	つのだ小児科医院
	16日	(日)	加藤こどもC
	23日	(日)	ともながこどもC
	24日	(月)	福島小児科医院
3月	1日	(日)	つのだ小児科医院
	8日	(日)	ともながこどもC

※診療(受付)時間は9:00～12:00です。

当番は変わることがありますので、ご利用の際は加須市の広報誌やホームページで最新情報をご確認ください。

感染症の情報

インフルエンザの報告数は多く、いくつもの学校や保育園などで学級閉鎖になっているようです。寒く乾燥した日々はまだ続きます。十分注意してください。

その他溶連菌感染症や胃腸炎の報告数も多く、水痘もやや多くなっています。

手洗いやマスクはすべての感染症の予防に有効です。

ヒブワクチンが出荷停止に

最近ごく一部の製品に不具合(注射針のサビ?)が見つかったため、ワクチンの出荷を停止するという連絡が来ました。すでに流通している製品の回収はありませんので、現在予約している方の接種はギリギリ実施可能ですが、今後の新規の希望者への接種はできなくなりました。

出荷再開の時期は全く不明です。とりあえず新規の申し込みに対しては「予約リスト」を作成し、ワクチンの出荷が再開し入荷があり次第こちらから連絡することといたします。

今年のスギ花粉量は?

昨シーズンのおおよそ半分程度という情報に変更はないようですが、何ととっても暖冬ですので、飛散開始時期が早まる可能性があります。この地域でスギ花粉が本格的に飛散するのは、だいたい3月に入ってからですが、それよりも2～3週間早まると考えて対策を始めたほうが良いかもしれません。

去年より少ないとはいっても、必ず飛散しますよ。



B型肝炎ワクチンの現状

B型肝炎ワクチンの供給は、まだまだ潤沢というレベルにはほど遠いです。毎月一定量の入荷がありますが、何時、何本が入荷されるかは分からないため、当院では引き続き接種ご希望の方を「予約リスト」に登録し、ワクチンが確保できた時点で連絡いたします。

接種順番は単純に申し込み順ではなく、接種回数や生年月日に基づいて優先順位を決めていますのでどうかご了承願います。

<接種曜日についてのお願い>

現在流通しているB型肝炎ワクチンは、1本に0.5mlの注射液が入っていますが、これは成人の1回分に相当します。お子様（10歳未満）の1回接種量は0.25mlですので1本のワクチンでお子様2名に接種できます。ただし一人分の注射液を使った残りの液は、24時間以内に使用しなければならず、それ以上経過したら捨てなければならない決まりです。そこで不足しているワクチンの無駄を少しでも減らすため、当分の間は接種する曜日を木・金・土曜日に限定することにしました。どうかご理解とご協力をお願い申し上げます。

なおB型肝炎ワクチンの在庫は医療機関によっても差があるようです。お急ぎの方は複数の医療機関にお問い合わせしてみることをお勧めします。

夜間や休日の急病対策/電話相談

#7119・・・# 7 (何でも) 119番!

北川辺地域では 048-824-4199へ

小児の救急電話相談（#8000）、成人の救急電話相談（#7000）、そして埼玉県救急医療情報案内を一つにまとめた相談ダイヤルです。

これさえ覚えておけば、こどもから大人まで、全ての方の医療相談や医療機関の案内まで対応してくれますので便利です。

こどもの救急（日本小児科学会）

診療時間外に医療機関を受診したほうが良いかどうかの判断の目安をホームページで提供しています。

<http://kodomo-qc.jp/>



食物アレルギーの新しい知識

先日、埼玉県教育委員会主催の研修会に出席し、小児の食物アレルギー専門の先生の話をお聴く機会がありました。

たくさんのお話の中で特に印象に残ったこと、皆様に伝えたいことの要点を紹介します。

- ① 食物アレルギーの最初のきっかけは「食べることでなく、荒れた肌からアレルギー原因物質が入り込むこと」だということ。
- ② 血液検査の結果だけで食物制限するのは大間違い！ 唯一の正解は「食物負荷試験」
※どれくらい食べたら症状が出るかの確認

卵をはじめとした離乳食は、開始を遅らせるのは意味がなく、より早期に開始したほうが食物アレルギーになりにくいそうです。ただし湿疹や肌荒れがあるお子様はステロイド軟膏などで皮膚の状態を改善しながら、より少量から食べさせましょう。

自宅で食べさせるのがどうしても不安な時は、アレルギー専門医のいる病院へ相談しましょう。

当院のホームページ

<http://tomonaga-kodomoc.jp>



ともなが
こどもクリニック

加須市下高柳 1633-1

TEL 0480-66-4150